

3

13 さてイエスは山に登り、みこころにかなった者たちを呼び寄せられたので、彼らはみもとにきた。
14 そこで十二人をお立てになった。彼らを自分のそばに置くためであり、さらに宣教につかわし、
15 また悪霊を追い出す権威を持たせるためであった。
16 こうして、この十二人をお立てになった。そしてシモンにペテロという名をつけ、
17 またゼベダイの子ヤコブと、ヤコブの兄弟ヨハネ、彼らにはボアネルゲ、すなわち、雷の子という名をつけられた。
18 つぎにアンデレ、ピリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、アルバヨの子ヤコブ、タダイ、熱心党のシモン、
19 それからイスカリオテのユダ。このユダがイエスを裏切ったのである。
イエスが家にはいられると、

3

20 群衆がまた集まってきたので、一同は食事をする暇もないほどであった。
21 身内の者たちはこの事を聞いて、イエスを取押えに出てきた。気が狂ったと思ったからである。
22 また、エルサレムから下ってきた律法学者たちも、「彼はベルゼブルにとりつかれている」と言い、「悪霊どものかしらによって、悪霊どもを追い出しているのだ」とも言った。
23 そこでイエスは彼らを呼び寄せ、譬をもって言われた、「どうして、サタンがサタンを追い出すことができようか。
24 もし国が内部で分れ争うなら、その国は立ち行かない。
25 また、もし家が内わで分れ争うなら、その家は立ち行かないであろう。
26 もしサタンが内部で対立し分争するなら、彼は立ち行けず、滅んでしまう。
27 だれでも、まず強い人を縛りあげなければ、その人の家に押し入って家財を奪い取ることができない。縛ってからはじめて、その家を略奪することができる。
28 よく言い聞かせておくが、人の子らには、その犯すすべての罪も神をけがす言葉も、ゆるされる。
29 しかし、聖霊をけがす者は、いつまでもゆるされず、永遠の罪に定められる」。
30 そう言われたのは、彼らが「イエスはけがれた霊につかれている」と言っていたからである。
31 さて、イエスの母と兄弟たちがきて、外に立ち、人をやってイエスと呼ばせた。
32 ときに、群衆はイエスを囲んですわっていたが、「ごらんなさい。あなたの母上と兄弟、姉妹たちが、外であなたを尋ねておられます」と言った。
33 すると、イエスは彼らに答えて言われた、「わたしの母、わたしの兄弟とは、だれのことか」。
34 そして、自分をとりかこんで、すわっている人々を見まわして、言われた、「ごらんなさい、ここにわたしの母、わたしの兄弟がいる」。
35 神のみこころを行なう者はだれでも、わたしの兄弟、また姉妹、また母なのである」。

4

1 イエスはまたも、海べで教えはじめられた。おびたしい群衆がみもとに集まったので、イエスは舟に乗ってすわったまま、海上におられ、群衆はみな海に沿って陸地にいた。

2 イエスは譬で多くの事を教えられたが、その教の中で彼らにこう言われた、

3 「聞きなさい、種まきが種をまきに出て行った。

4 まいているうちに、道ばたに落ちた種があった。すると、鳥がきて食べてしまった。

5 ほかの種は土の薄い石地に落ちた。そこは土が深くないので、すぐ芽を出したが、

6 日が上ると焼けて、根がないために枯れてしまった。

7 ほかの種はいばらの中に落ちた。すると、いばらが伸びて、ふさいでしまったので、実を結ばなかった。

8 ほかの種は良い地に落ちた。そしてはえて、育って、ますます実を結び、三十倍、六十倍、百倍にもなった」。

9 そして言われた、「聞く耳のある者は聞くがよい」。

10 イエスがひとりになられた時、そばにいた者たちが、十二弟子と共に、これらの譬について尋ねた。

11 そこでイエスは言われた、「あなたがたには神の国の奥義が授けられているが、ほかの者たちには、すべてが譬で語られる。

12 それは『彼らを見るには見るが、認めず、

聞くには聞くが、悟らず、

悔い改めてゆるされることがない』ためである」。

13 また彼らに言われた、「あなたがたはこの譬がわからないのか。それでは、どうしてすべての譬がわかるだろうか。

14 種まきは御言をまくのである。

15 道ばたに御言がまかれたとは、こういう人たちのことである。すなわち、御言を聞くと、すぐにサタンがきて、彼らの中にまかれた御言を、奪って行くのである。

16 同じように、石地にまかれたものとは、こういう人たちのことである。御言を聞くと、すぐに喜んで受けるが、17 自分の中に根がないので、しばらく続くだけである。そののち、御言のために困難や迫害が起つてくると、すぐつまずいてしまう。

18 また、いばらの中にまかれたものとは、こういう人たちのことである。御言を聞くが、

19 世の心づかいと、富の惑わしと、その他いろいろな欲とがはいってきて、御言をふさぐので、実を結ばなくなる。

20 また、良い地にまかれたものとは、こういう人たちのことである。御言を聞いて受けいれ、三十倍、六十倍、百倍の実を結ぶのである」。

4

21 また彼らに言われた、「ますの下や寝台の下に置くために、あかりを持って置くことがあろうか。燭台の上に置くためではないか。

22 なんでも、隠されているもので、現れないものはなく、秘密にされているもので、明るみに出ないものはない。

23 聞く耳のある者は聞くがよい」。

24 また彼らに言われた、「聞くことがらに注意しなさい。あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量り与えられ、その上になお増し加えられるであろう。

25 だれでも、持っている人は更に与えられ、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられるであろう」。

26 また言われた、「神の国は、ある人が地に種をまくようなものである。

27 夜昼、寝起きしている間に、種は芽を出して育って行くが、どうしてそうなるのか、その人は知らない。

28 地はおのずから実を結ばせるもので、初めに芽、つぎに穂、つぎに穂の中に豊かな実ができる。

29 実がいと、すぐにかまを入れる。刈入れ時がきたからである」。

30 また言われた、「神の国を何に比べようか。また、どんな譬で言いあらわそうか。

31 それは一粒のからし種のようなものである。地にまかれる時には、地上のどんな種よりも小さいが、

32 まかされると、成長してどんな野菜よりも大きくなり、大きな枝を張り、その陰に空の鳥が宿るほどになる」。

33 イエスはこのような多くの譬で、人々の聞く力にしたがって、御言を語られた。

34 譬によらないでは語られなかったが、自分の弟子たちには、ひそかにすべてのことを解き明かされた。

35 さてその日、夕方になると、イエスは弟子たちに、「向こう岸へ渡ろう」と言われた。
 36 そこで、彼らは群衆をあとに残し、イエスが舟に乗っておられるまま、乗り出した。ほかの舟も一緒に行った。
 37 すると、激しい突風が起り、波が舟の中に打ち込んで、舟に満ちそうになった。
 38 ところがイエス自身は、舳の方でまくらをして、眠っておられた。そこで、弟子たちはイエスをおこして、「先生、わたしどもがおほれ死んでも、おかまいにならないのですか」と言った。
 39 イエスは起きあがって風をしかり、海にむかって、「静まれ、黙れ」と言われると、風はやんで、大なぎになつた。
 40 イエスは彼らに言われた、「なぜ、そんなにこわがるのか。どうして信仰がないのか」。
 41 彼らは恐れおののいて、互に言った、「いつたい、この方はだれだろう。風も海も従わせるとは」。

1 こうして彼らは海の向こう岸、ゲラサ人の地に着いた。
 2 それから、イエスが舟からあがられるとすぐに、けがれた霊につかれた人が墓場から出てきて、イエスに出会つた。
 3 この人は墓場をすみかとしており、もはやだれも、鎖でさえも彼をつなぎとめて置けなかった。
 4 彼はたびたび足かせや鎖でつながれたが、鎖を引きちぎり、足かせを砕くので、だれも彼を押えつけることができなかつたからである。
 5 そして、夜昼たえまなく墓場や山で叫びつづけて、石で自分のからだを傷つけていた。
 6 ところが、この人がイエスを遠くから見ると、走り寄って拝し、
 7 大声で叫んで言った、「いと高き神の子イエスよ、あなたはわたしとなんの係わりがあるのです。神に誓つてお願いします。どうぞ、わたしを苦しめないでください」。
 8 それは、イエスが、「けがれた霊よ、この人から出て行け」と言われたからである。
 9 また彼に、「なんという名前か」と尋ねられると、「レギオン」と言います。大ぜいなのですから」と答えた。
 10 そして、自分たちをこの土地から追い出さないようにと、しきりに願いつづけた。
 11 さて、その山の中腹に、豚の大隊が飼つてあつた。
 12 霊はイエスに願つて言った、「わたしどもを、豚にはいらせてください。その中へ送ってください」。
 13 イエスがお許しになつたので、けがれた霊どもは出て行って、豚の中へはいり込んだ。すると、その群れは二千匹ばかりであつたが、がけから海へなだれを打って駆け下り、海の中でおほれ死んでしまつた。
 14 豚を飼う者たちが逃げ出して、町や村にふれまわつたので、人々は何事が起つたのかと見にきた。
 15 そして、イエスのところに来て、悪霊につかれた人が着物を着て、正気になってすわつており、それがレギオンを宿していた者であるのを見て、恐れた。
 16 また、それを見た人たちは、悪霊につかれた人の身についた事と豚のことを、彼らに話して聞かせた。
 17 そこで、人々はイエスに、この地方から出て行つていただきたいと、頼みはじめた。
 18 イエスが舟に乗ろうとされると、悪霊につかれていた人のお供をしたいと願ひ出た。
 19 しかし、イエスはお許しにならないで、彼に言われた、「あなたの家族のもとに帰つて、主がどんなに大きなことをしてくださつたか、またどんなにあわれんでくださったか、それを知らせなさい」。
 20 そこで、彼は立ち去り、そして自分にイエスがしてくださつたことを、ことごとくデカポリスの地方に言いひろめ出したので、人々はみな驚き怪しんだ。

21 イエスがまた舟で向こう岸へ渡られると、大ぜいの群衆がみもとに集まってきた。イエスは海べにおられた。
22 そこへ、会堂司のひとりであるヤイロという者がきて、イエスを見かけるとその足もとにひれ伏し、
23 しきりに願って言った、「わたしの幼い娘が死にかかっています。どうぞ、その子がなおって助かりますように、おいでになって、手をおいてやってください」。
24 そこで、イエスは彼と一緒に出かけられた。大ぜいの群衆もイエスに押し迫りながら、ついて行った。

25 さてここに、十二年間も長血をわずらっている女がいた。

26 多くの医者にかかって、さんざん苦しめられ、その持ち物をみな費してしまっただが、なんの効もないばかりか、かえってますます悪くなる一方であった。

27 この女がイエスのことを聞いて、群衆の中にまぎれ込み、うしろから、み衣にさわった。

28 それは、せめて、み衣にでもさわれば、なおしていただけるだろうと、思っていたからである。

29 すると、血の元がすぐにかわき、女は病気がなおったことを、その身に感じた。

30 イエスはすぐ、自分の内から力が出て行ったことに気づかれて、群衆の中で振り向き、「わたしの着物にさわったのはだれか」と言われた。

31 そこで弟子たちが言った、「ごらんのとおり、群衆があなたに押し迫っていますのに、だれがさわったかとおっしゃるのですか」。

32 しかし、イエスはさわった者を見つけようとして、見まわしておられた。

33 その女は自分の身に起ったことを知って、恐れおののきながら進み出て、みまえにひれ伏して、すべてありのままを申し上げた。

34 イエスはその女に言われた、「娘よ、あなたの信仰があなたを救ったのです。安心して行きなさい。すっかりなおって、達者でいなさい」。

35 イエスが、まだ話しておられるうちに、会堂司の家から人々がきて言った、「あなたの娘はなくなりました。このうえ、先生を煩わすには及びませぬ」。

36 イエスはその話している言葉を聞き流して、会堂司に言われた、「恐れることはない。ただ信じなさい」。

37 われた、ベテロ、ヤコブ、ヤコブの兄弟ヨハネのほかは、ついて来ることを、だれにもお許しにならなかつた。

38 彼らが会堂司の家に着くと、イエスは人々が大声で泣いたり、叫んだりして、騒いでいるのをごらんになり、
39 内にはいって、彼らに言われた、「なぜ泣き騒いでいるのか。子供は死んだのではない。眠っているだけである」。

40 人々はイエスをあざ笑った。しかし、イエスはみんなの者を外に出し、子供の父母と供の者たちだけを連れて、
41 子供のいる所にはいって行かれた。

42 それを、「少女よ、さあ、起きなさい」という意味である。
43 イエスは、だれにもこの事を知らずなど、きびしく彼らに命じ、また、少女に食物を与えるようにと言われた。

44 すると、少女はすぐに起き上がって、歩き出した。十二歳にもなっていたからである。彼らはたちまち非常に驚きに打たれた。

45 イエスは、だれにもこの事を知らずなど、きびしく彼らに命じ、また、少女に食物を与えるようにと言われた。

6

1 イエスはそこを去って、郷里に行かれたが、弟子たちも従って行った。
2 そして、安息日になったので、会堂で教えはじめられた。それを聞いた多くの人々は、驚いて言った、「この人は、これらのことをどこで習ってきたのか。また、この人の授かった知恵はどうだろう。このような力あるわがその手で行われているのは、どうしてか。
3 この人は大工ではないか。マリヤのむすこで、ヤコブ、ヨセ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。またその姉妹たちも、ここにわたしたちと一緒にいるではないか」
こうして彼らはイエスにつまずいた。
4 イエスは言われた、「預言者は、自分の郷里、親族、家以外では、どこでも敬われたいことはない」。
5 そして、そこでは力あるわが一つもすることができず、ただ少数の病人に手をおいていやされただけであった。
6 そして、彼らの不信仰を驚き怪しまれた。
それからイエスは、附近の村々を巡りあるいて教えられた。

6

7 また十二弟子を呼び寄せ、ふたりずつかわすことにして、彼らにけがれた霊を制する権威を与え、
8 また旅のために、つえ一本のほかには何も持たないようにな、パンも、袋も、帯の中に銭も持たず、
9 ただわらじをはくだけで、下着も二枚は着ないように命じられた。
10 そして彼らに言われた、「どこへ行っても、家にはいなかったなら、その土地を去るまでは、そこにとどまっていなさい。
11 また、あなたがたを迎えず、あなたがたの話聞きもしない所があったなら、そこから出て行くとき、彼らに対する抗議のしるしに、足の裏のちりを払い落しなさい」。
12 そこで、彼らは出て行って、悔改めを宣べ伝え、
13 多くの悪霊を追い出し、大ぜいの病人に油をぬっていやした。